

柵の木からの手紙

2021年 師走 12月号



4日： 新月 旧 11月 1日

7日： 大雪

19日： 満月 旧 11月 16日

22日： 冬至

この秋、収穫後の自然農法の畑の様子が変わった。



毎年、食用芋を連作栽培している畑。義父

が作業していた2000年の頃から10年位は、緑肥エン麦を後作緑肥として栽培して晩秋には畑にすき込んでいました。

私が作業をする様になり2, 3年は、芋の収穫後にえん麦を栽培しましたが、私のやり方では、義父程には緑肥が大きくなりませんでした。それで、後作緑肥の栽培から手を引きました。

前回の冬の有機JASの講習会や、3月の自然農法の研修会での東京農業大学網走キャンパスの教授の講演を受けて、この秋のエン麦播種を計画し実行しました。

芋の収穫後、9月上旬に播種したエン麦を、秋にすき込まず春までそのままにして置く覚悟をしたら11月末には、左上の写真の様になりました。

左上2枚目の写真、自然農法の看板の左は、正規の秋播き小麦。右は自然の畑で、ヒマワリのすき込み跡。有機ビーツの収穫後。そして、エン麦の種が足らなかった芋の収穫跡が10畝ほど、茶色の土が露出している。その右は後作緑肥のエン麦が茂っています。この時期に畑が緑に覆われている様子に心癒されます。